

## 経済統計学会第36回全国総会

経済統計学会第36回全国総会は、1992年7月27日（月）から29日（水）の3日間にわたり、大東文化大学（東京都板橋区）において開催された。人口問題研究所からは、廣嶋清志および渡邊吉利の両技官が出席した。報告は経済統計の広範囲なテーマにわたり、多くの研究成果の披露と活発な議論の展開がなされた。報告の中で、人口統計関連テーマの小特集が生まれ、廣嶋清志会員および福島利夫（大阪経済法科大学）会員が座長を務めた。人口統計特集では、坂寄俊雄会員による市区町村別人口の年齢構造変化の検討および藤岡光夫（島根大学）会員による人口移動の実態調査および事例の検討結果が報告され、また、渡邊吉利会員は日本人女性のライフコースに関する検討結果の報告を行った。

（渡邊吉利記）

## 第2回日本家族社会学会大会・第25回家族社会学会セミナー

標記大会およびセミナーは1992年9月6日（日）～8日（火）、北海道大学学術交流会館において開催された。日本家族社会学会は家族社会学セミナーを基盤として1991年7月21日設立された。学会発足にともない会員の選挙により理事が選出され、初代会長に森岡清美会員（成城大学）が総会において選出された。

第1日午後と第3日午前に自由報告8題、第2日午前と第3日午前にテーマセッション2つ、第2日午後にシンポジウムの報告・討論がそれぞれ行われた。本研究所からは阿藤誠、小島宏、西岡八郎（代読）、廣嶋清志、渡邊吉利が参加し発表を行った。それぞれの論題と報告者等は以下の通り。

### 自由報告 I

司会者 布施 晶子

1. 性役割と自尊感情に関する一研究  
——主に身体の性役割との関連において——……………大山 治彦（大阪市立大学）
2. 家族変動の尺度として個人化を考える  
——新聞紙上に見る「私」の主張——……………中久喜町子（日本大学）
3. 最近の親子同居の動向……………廣嶋 清志（厚生省人口問題研究所）
4. 家族の就寝形態に関する研究……………大久保孝治（放送大学）
5. 図像にみる戦後日本の近代家族……………酒井はるみ（茨城大学）
6. 社会への二つの回路——女性の視点から——……………天木志保美（同志社大学）

### テーマ・セッション I

#### 『家族関係と出生行動——途上諸国との比較』

司会者 小島 宏

1. 中国の出生力変化と家族——吉林省農村の場合——……………津谷 典子（日本大学）
2. タイにおける結婚行動と出生行動……………安蔵 伸治（明治大学）
3. マレーシアにみる女性の役割と出生行動……………黒須 里美（国際日本文化研究センター）  
ジュアン・タン（ワシントン大学）
4. 家族形成と出生行動——メキシコと沖縄——……………西岡 八郎（厚生省人口問題研究所）
5. アフリカにおける夫婦の相対的地位と出生行動……………小島 宏（厚生省人口問題研究所）

討論者 阿藤 誠

### シンポジウム

#### 『アジアの家族・親族関係』

司会者 宮城 宏・松田(熊谷)苑子

1. オセアニアからみた親族……………清水 昭俊（国立民族学博物館）
2. 日本と中国における家・同族制度と地域社会変動の比較考察……………中村 則弘（帯広畜産大学）
3. 女性の「社会進出」の比較——東アジアの場合——……………瀬地山 角（東京大学）

4. 現代日本と韓国における家族意識の比較研究  
 ——福岡・ソウル調査から——……………篠崎 正美 (アジア女性交流・研究フォーラム)

自由報告Ⅱ

司会者 佐竹 洋人

1. 人口学的事象からみた日本人のライフコース……………渡邊 吉利 (厚生省人口問題研究所)  
 2. 日本の婚姻と離婚：変遷と地域差……………熊谷 文枝 (杏林大学)

テーマ・セッションⅡ

『ポスト・モダンの家族ライフスタイルについて』

司会者 野々山久也

1. 家族ライフスタイルの多様化を考える……………神原 文子 (愛知県立大学)  
 2. 非婚同棲カップルのライフスタイル……………善積 京子 (追手門学院大学)  
 3. 家族ライフイベントのゆくえ……………渡辺 秀樹 (慶応義塾大学)  
 (廣嶋清志記)

厚生科学研究家庭出生問題総合調査研究・研究シンポジウム

平成4年7月13日(月)、14日(火)の二日間にわたって恩賜財団母子愛育会の主催で「厚生科学研究家庭出生問題総合調査研究・研究シンポジウム」が日本総合愛育研究所で開催された。これは、近年の低出生率問題への関心に触発され、厚生省において平成3年に発足した厚生科学研究家庭出生問題総合調査研究の平成3年度分の研究成果の報告を主眼とするものであった。第1日目の主要なテーマは「西欧諸国における出生率と家族・家庭政策の関係に関する比較研究」と「家庭機能に関する：家庭養育機能及び家庭に対する社会的・公的支援に関する研究」の二つであり、それぞれの研究プロジェクト・チームの参加者からの担当部分の報告があった。なお2日目は、この調査研究事業の一環として恩賜財団母子愛育会と本研究所の招きで来日したイタリア国立人口研究所長兼ローマ大学教授アントニオ・ゴリーニ氏の講演があった。ゴリーニ教授は7月16日(木)に本研究所に来所しイタリアの低出生率問題について講演を行った。シンポジウムには本研究所、日本総合愛育研究所、社会保障研究所などの研究スタッフ、ならびに厚生省児童家庭局の児童家庭問題の担当官が出席し、活発な討議が行われた。

第Ⅰ部：7月13日(月)

『西欧諸国における出生率と家族・家庭政策の関係に関する比較研究』

進行：阿藤 誠 (人口政策研究部長)

1. 西欧諸国全般の出生率変化と要因  
 阿藤 誠 (人口政策研究部長)  
 2. フランスにおける出生率と家族政策  
 小島 宏 (人口政策研究部国際人口研究室長)  
 3. ドイツにおける出生率と家族政策  
 野村 明代 (城西国際大学人文学部講師)  
 4. スウェーデンにおける出生率と家族政策  
 津谷 典子 (日本大学人口研究所助教授)

『家庭機能に関する：家庭養育機能及び家庭に対する社会的・公的支援に関する研究』

1. 家庭機能の整備充実にかかわる社会的・公的役割に関する研究  
 進行：高橋 重宏 (駒沢大学文学部教授)  
 1. 家庭機能とは何か、なぜいま家庭養育機能への社会的、公的支援が必要か  
 岩上 真珠 (明星大学人文学部専任講師)